

家庭婦人バレーボール競技者の参加動機

栗栖 歩佳 (競技スポーツ学科 コーチングコース)
指導教員 鳥羽 賢二

キーワード：家庭婦人，バレーボール競技，動機

1. はじめに

現代社会では、2007年に男女雇用機会均等法が改正され、女性も男性同様に働く時代になっている。また、女性は子育てや親の介護、家事と就労等の社会環境や価値観の大きな変化に伴い、女性特有のストレスを抱えている(東1979)。そのような背景があり、心身共にバランスを欠くことがない生活を心がける必要がある。

そうした背景の中、本研究では多くの女性が行っている家庭婦人バレーボール競技に着目し、競技者たちの参加動機について調査することとした。その調査結果をもとに、競技者の参加動機の傾向を探る。

2. 研究方法

(1) 文献調査：現代女性の現状や立場や家庭婦人バレーボール競技の特徴、ソーシャル・キャピタルについての文献調査

(2) アンケート調査：9人制家庭婦人バレーボール競技者 60名 (回収率98%)

・半構造化面接法によるインタビュー調査：対象者3名

3. 調査結果と考察

(1) 家庭婦人バレーボール競技は、老若男女誰でもが楽しく行えるスポーツで、1964年東京オリンピック大会の「東洋の魔女」が優勝したことで一気にバレーボールの人气が高まり、家庭婦人バレーボール競技者も増えてきたことが理解できた。

(2) 表1は、家庭婦人バレーボール競技者の主な参加動機をまとめたものである。①と②は、スポーツに元来備わっている効用として安易に理解できることであった。加えて、③には、本調査により世代を超えた交流ができていたとの結果を得た。このことは「ソーシャル・キャピタル¹⁾」の醸成に繋がっていると考えられる。

表1：主な参加動機 (筆者作成)

主な参加動機	
①	体力キープ・向上=体力維持・向上のため
②	日常に抱える家事・仕事・家庭内コミュニケーションからのストレス発散のため
③	友人との交流や新しい友人関係をつくるため 世代を超えた交流ができるため

4. まとめ

家庭婦人バレーボール競技者の参加動機は、心身の健康をよくするだけでなく、ソーシャル・キャピタル形成の場になっていることが考えられる。ソーシャル・キャピタルの形成は、子供の教育成果の向上、地域経済の発展・治安の向上、地域住民の心身の健康向上など経済面や社会面において好ましい効果に繋がっているとされている(Putnam 1993)。したがって、家庭婦人バレーボール競技者の参加動機を精査すると、心身の健康はもとより、地域交流の場となっていることで、上述したような様々な効用が得られるスポーツとなっていることが理解できる。

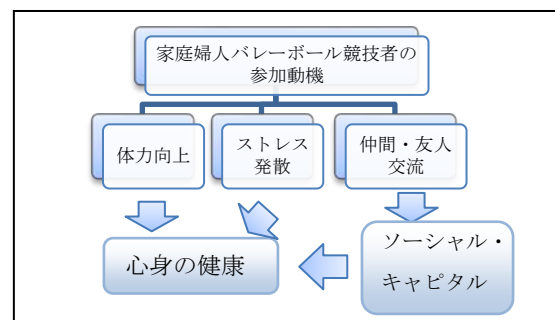


図1：本研究の結果概念図 (筆者作成)

引用・参考文献

東清和 (1979) 「性差の社会心理」 pp. 123-126
飯田義明 (2010) 「地域社会におけるスポーツ実践とソーシャル・キャピタルの可能性」
社会資本研究論集, 第1号, 91-108 他

¹⁾ Social capital (社会関係資本) とは、人々の協調行動が活発化することで社会の効率性を高めることができるという考え方のもとで、社会の信頼関係、規範、ネットワークといった社会組織の重要性を説く概念である。(Putnam1993)